



明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

山口県に学ぶ No.3

仕掛けて 動かす

「奇跡の学校」で山口県のコミュニティ・スクールの取組をみていると、コミュニティ・スクール立ち上げ期には、学校が仕掛け、コミュニティ・スクールを動かしていったというのが共通しているように思います。そこには、取組の先頭にたれた校長先生たちがそれぞれの学校・地域の実態を踏まえ、コミュニティ・スクールで「子どもたちを、学校を、地域を・・・」と各々がビジョンを持ち、知恵をしぼり、いろいろと仕掛けていったことが、地域や保護者を動かし、地域に支えられ、地域の中で子どもたちが育っていく仕組ができていったのではと思います。

そんな例の一つとして K 中学校の取組が紹介されています。K 中学校は生徒指導上課題があり、5 年前着任された現校長先生が「やれることは何でもする。そして、多くの学校応援者をつくろう。」と動き始められました。そしてまず取組始めたのが「K 中学校」「チーム K」という幟旗を持って月に 1 回校区の隅々まで清掃をおこなう活動だったそうです。そこには「定期的に継続することで、地域の方の子どもたちを見る目はきっと変わってくるだろう」という強い信念があったそうです。最初、子どもたちはただ歩くだけでゴミを拾おうとはせず、それでも先生たちは子どもたちに笑顔で話しかけながら一緒に歩き、汗を流して清掃活動を続けたそうです。その間も様々な問題が起こる中、清掃活動の中で地域の方に褒められた経験、先生方に笑顔で接せられる経験、地域の方による紙芝居や手品といった催し物で応援される経験、そして生徒会の自治的な取組、生徒たちの地域行事への参加等々、様々な取組の中で学校は徐々に落ち着き、6 年前には、年間 5000 件近くの生徒が保健室に来室していたのが、現在はほとんどいなくなったそうです。

K 中学校の事例をみていると校長先生の「やれることは何でもする。そして、多くの学校応援者をつくろう。」という信念は、言い換えると「学校を社会に開く」ということではと感じます。先生方も最初は戸惑ったと思いますが、取組む中で、「学校を開く」という意味が見えてきたからこそ「子どもを信じて、任せて、支える」姿勢で、笑顔で子どもたちに接することができたのではと思います。

現在、子どもたちは具体的な重点目標として「日本一きれいな学校にする」と「自分たちの力で K 校区を元気にする」という 2 つをかけた、「赤ちゃんがはいはいできるような学校」を合言葉に清掃に励み、朝は学校近くの交差点に立って通勤される方へ「おはようございます。いってらっしゃいませ。」と 100 名近くの子どもがあいさつ運動に参加されているそうです。

そうした活動を続ける子どもへは地域の皆さんからは「K 中学校の生徒を誇りに思う」といった感謝や賞賛の言葉がたくさん寄せられ、そうした地域貢献に頑張る子どもたちを支援するために、毎日、毎週、毎月たくさんの方が来校され、子どもたちを支援し、自らが学校で学ぶことが来校される方のやりがい・生きがいになっているそうです。

この K 中学校の取組は、次期学習指導要領のキーワードになっている「社会に開かれた教育課程」を各学校で考える上で大きなヒントになると思います。学校サイドからコミュニティ・スクールを考えた時、「コミュニティ・スクール」＝「社会に開かれた教育課程」と言っているのかもしれませんが、まず、校内で社会に開かれた教育課程について考え、開いていけることから開いていくことから始めてみるのはいかがでしょうか。



(参考文献：奇跡の学校)

